

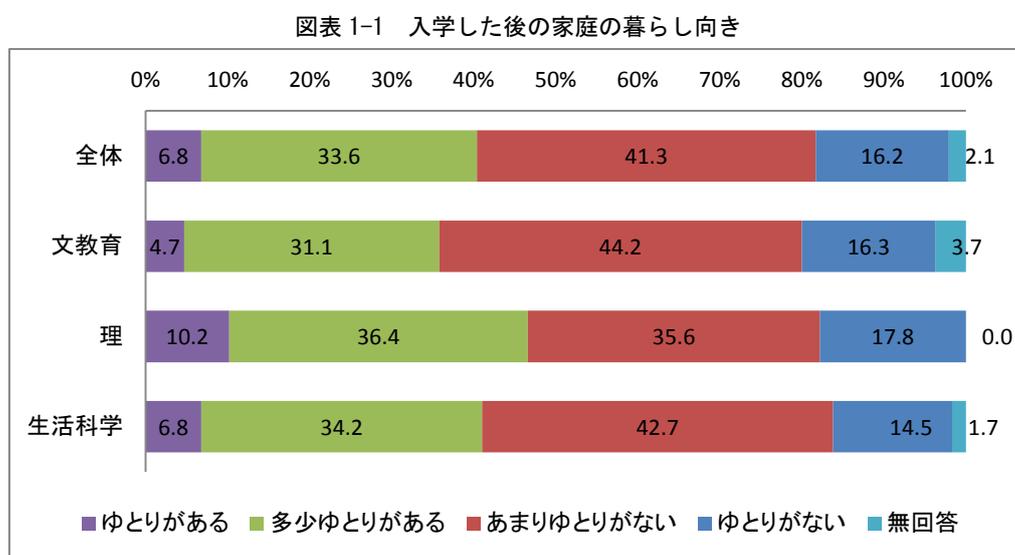
## 第2章 「新入生の保護者調査」の結果報告

### (1) 家庭の暮らし向き

本節では、新入生の家庭の暮らし向きについて、①大学入学後の家庭の暮らし向き、②家計支持者の職業、③家計支持者の年収、④世帯年収から示していく。

#### ①大学入学後の家庭の暮らし向き

図表 1-1 は、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きを「ゆとりがある」「多少ゆとりがある」「あまりゆとりがない」「ゆとりがない」の4件法で尋ねた結果である。



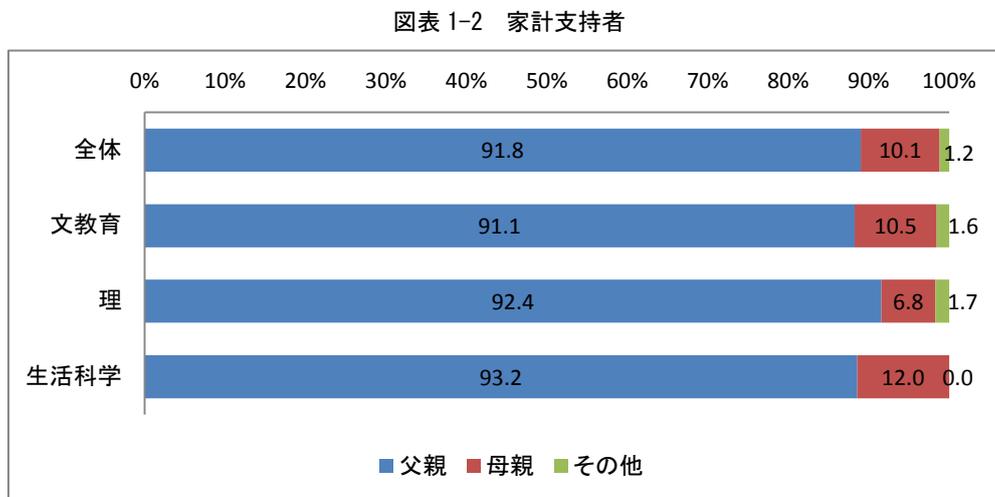
全体で見ると、「あまりゆとりがない」が41.3%と最も高く、「ゆとりがない」と合わせると全体のおよそ6割に及んでいる。

学部別にみると、理学部では「ゆとりがある」が1割を超えており、「多少ゆとりがある」を加えるとおよそ5割に及んでおり、他の学部に比べて高い。

これらの傾向は、平成25年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学2013, P26 参照）。

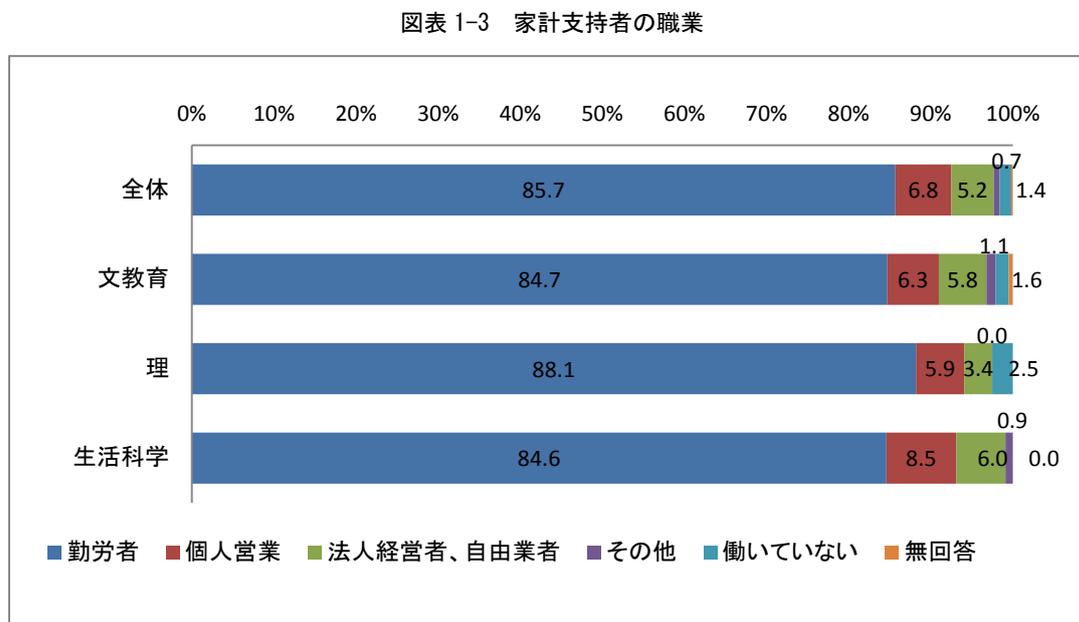
## ②家計支持者の職業

図表 1-2 は、新入生の家計支持者について、「父親」「母親」「その他」別に示した結果である。



家計支持者は全体の 91.8%が「父親」で、学部による差異はみられない。平成 25 年度新入生の保護者でも、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2013, P26 参照）。

図表 1-3 は、家計支持者の職業について、「勤労者」「個人営業」「法人経営者・自由業者」「農林水産業者」「その他」「働いていない」別に示した結果である。

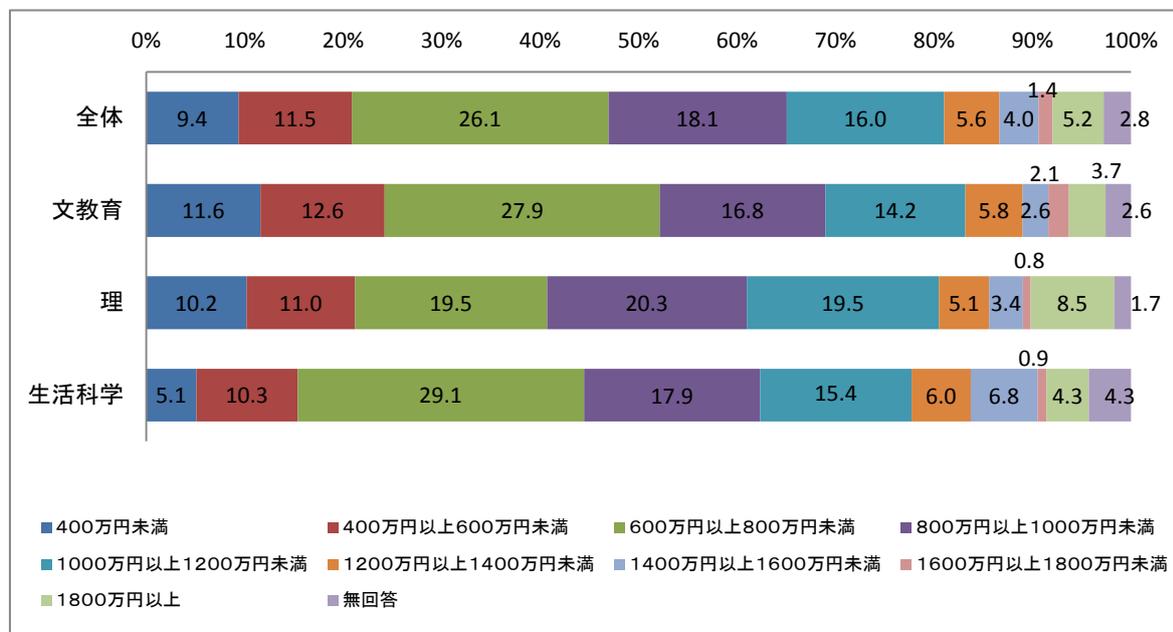


家計支持者の職業は全体の 85.7%が「勤労者」で、学部による差異はほぼみられない。平成 25 年度新入生の保護者でも、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2013, P27 参照）。

### ③家計支持者の年収

図表 1-4 は、新入生の家計支持者の年収について、「400 万円未満」「400 万円以上 600 万円未満」「600 万円以上 800 万円未満」「800 万円以上 1000 万円未満」「1000 万円以上 1200 万円未満」「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」の中から尋ねた結果である。

図表 1-4 家計支持者の年収



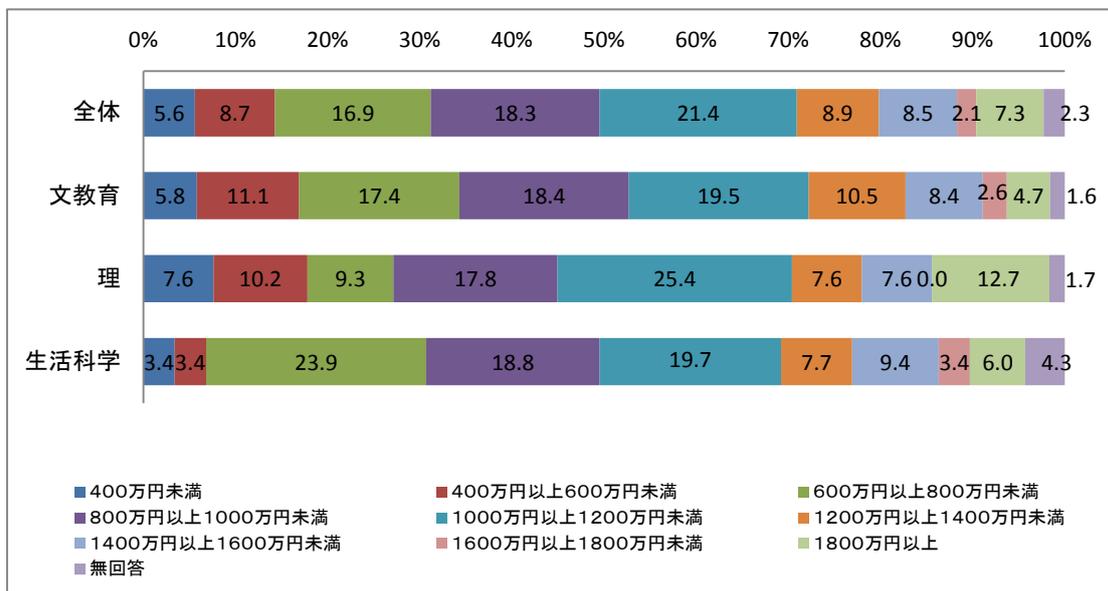
全体で見ると、「600 万円以上 800 万円未満」が 26.1%と最も高く、「800 万円以上 1000 万円未満」「1000 万円以上 1200 万円未満」がそれに続いている。平成 25 年度新入生の保護者でも、同様の傾向がみられた（お茶の水女子大学 2013, P27 参照）。

学部別にみると、生活科学部では「400 万円未満」「400 万円以上 600 万円未満」が他の学部と比べて低く、両者合わせても 15.4%であった。

#### ④世帯年収

さらに、新入生の家庭の世帯年収について、家計支持者同様に尋ねた結果が図表 1-5 である。

図表 1-5 世帯年収



全体で見ると、「1000万円以上1200万円未満」が21.4%と最も高く、「800万円以上1000万円未満」「600万円以上800万円未満」がそれに続いている。

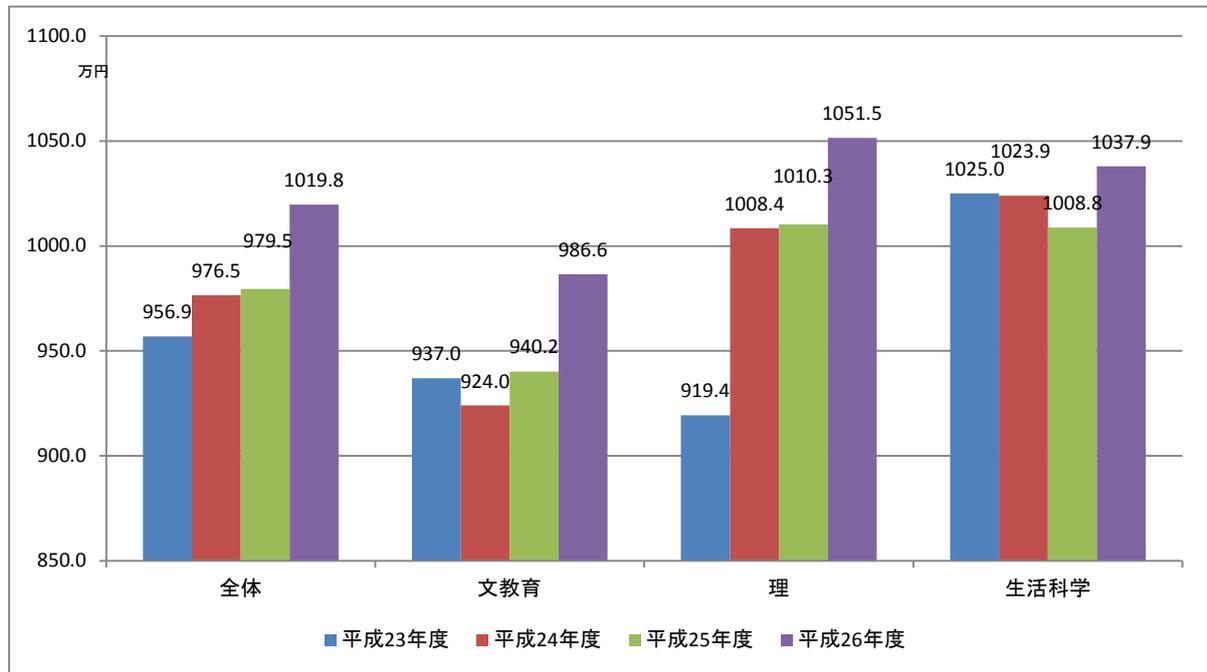
平成25年度の新入生の保護者では「600万円以上800万円未満」が22.3%と最も高く、「800万円以上1000万円未満」「1000万円以上1200万円未満」がそれに続いており（お茶の水女子大学2013, P27 参照）、今年度との違いがみられた。

学部別にみると、「400万円未満」「400万円以上600万円未満」は、他の学部に比べて生活科学部では低く、両者合わせても6.8%であった。また理学部では、「1800万円以上」が12.7%を占める一方で、「400万円未満」「400万円以上600万円未満」も両者を合わせると17.8%を占めている。

日本学生支援機構による「平成22年度学生生活調査」によれば、家庭の年間収入別学生数の割合（大学昼間部）は、1000万円をこえる家庭が全体の23.2%、国立大学・女子の25.4%である。それに対し図表1-5からは、本学新入生の家庭のうち、少なくとも48.2%が世帯年収1000万円をこえていることが示されており、世帯年収の高い家庭が、全国水準に比べて、本学新入生の家庭には多いことが明らかである。平成25年度新入生でも、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学2013, P28-29 参照）。

各カテゴリーの中央値に基づき、平成 23 年度以降の新入生の家庭の世帯年収平均（推測）を算出したものが図表 1-6 である。

図表 1-6 世帯年収平均（推測）



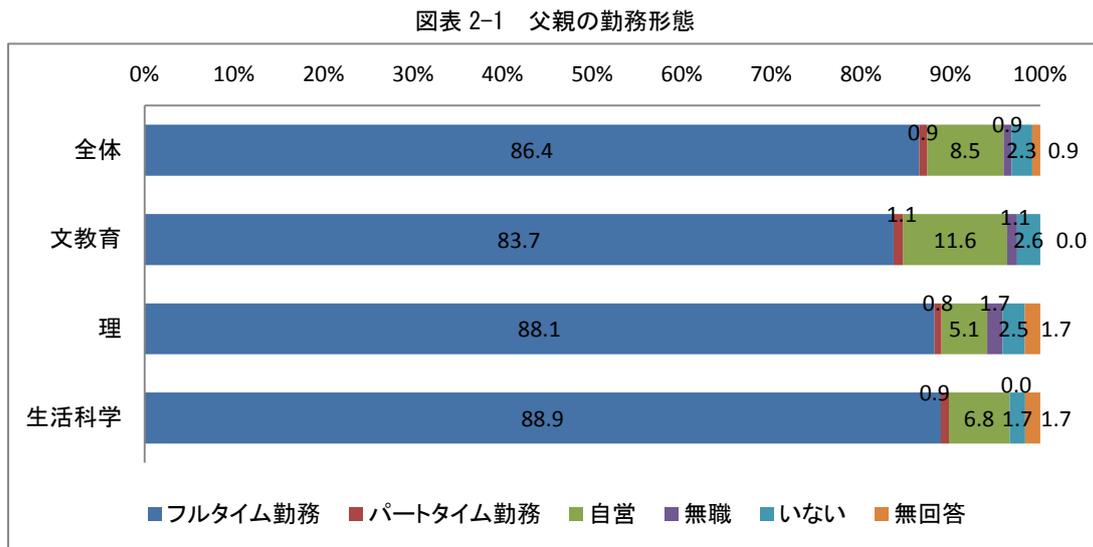
今年度新入生の世帯年収平均は、いずれの学部においてもこれまでに比べて顕著に高いことがわかる。ただしこれまで同様、文教育学部は他学部に比べて低いことがうかがえる。

## (2) 親の職業・学歴

本節では、新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態、②親の職種、③親の学歴から示していく。

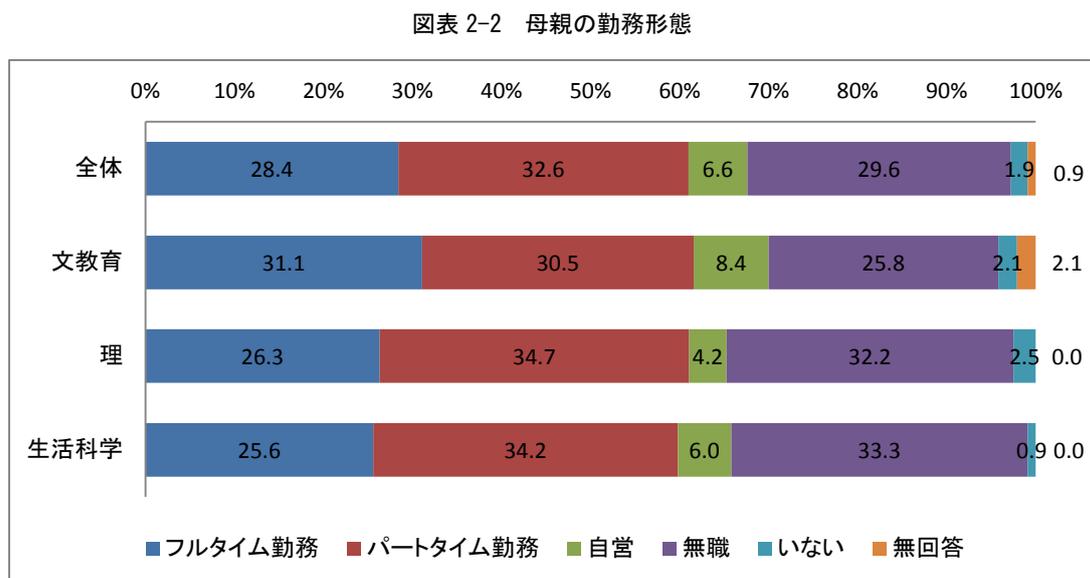
### ①親の勤務形態

図表 2-1 は、新入生の父親の勤務形態について、「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無業」「いない」別に尋ねた結果である。



新入生の父親の勤務形態は、全体のおよそ9割が「フルタイム勤務」であり、平成25年度も同様の傾向であった（お茶の水女子大学2013, P30 参照）。ただし文教育学部の「フルタイム勤務」は、他に比べて5ポイントほど低く、「自営」は5ポイントほど高い。

同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-2 である。



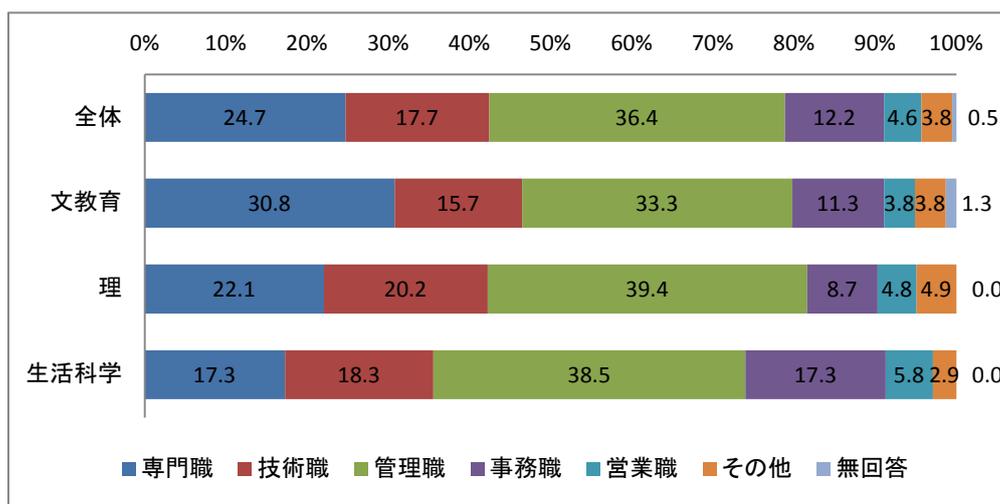
平成 25 度の新入生の母親は、「パートタイム勤務」が全体の 37.5%で最も高く、「無職」「フルタイム勤務」が続いていた（お茶の水女子大学 2013, P30 参照）。今年度新入生の母親も同様であるが、「パートタイム勤務」は 5 ポイント程度下がっている。

学部別にみると、文教育学部では「フルタイム勤務」が最も高く 3 割を超えており、「自営」も 8.4%と他の学部よりも目立つ。

## ②親の職種

図表 2-3 は、新入生の父親の勤務形態について「フルタイム勤務」と回答した者に尋ね、「専門職」「技術職」「管理職」「事務職」「営業職」「その他」別に示した結果である。

図表 2-3 父親の職種



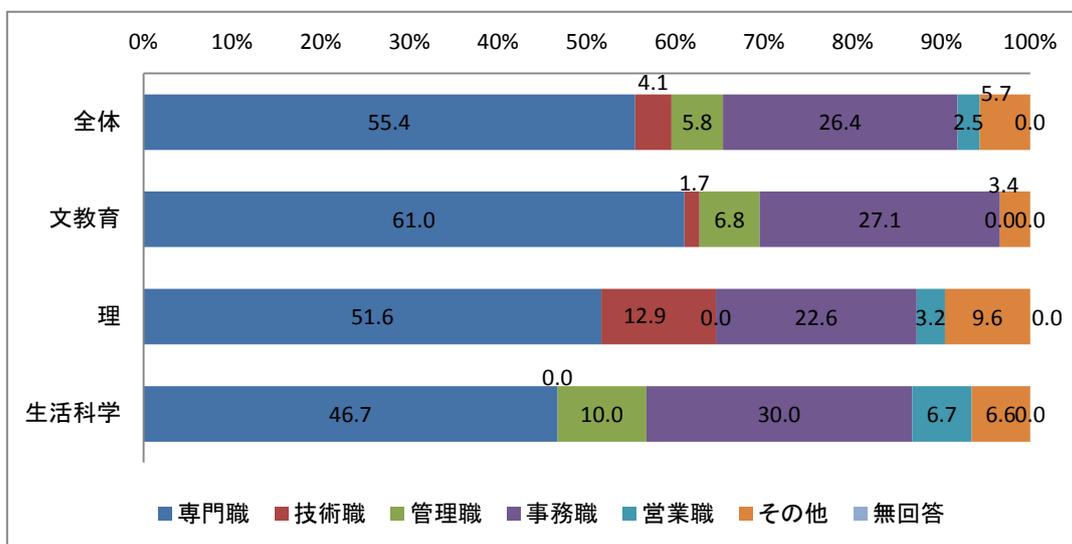
新入生の父親の職種は、全体で見ると、「管理職」が 36.4%と最も高く、それに「専門職」「技術職」が続いている。

学部別にみると、文教育学部では「管理職」と「専門職」で 3.0 ポイント程度の差だが、生活科学部では両方で 20 ポイント以上もの差がみられる。

これらの傾向は、平成 25 年度新入生の父親でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013, P31 参照）。

同様に、新入生の母親の勤務形態について「フルタイム勤務」と回答した者に尋ねた結果が図表 2-4 である。

図表 2-4 母親の職種



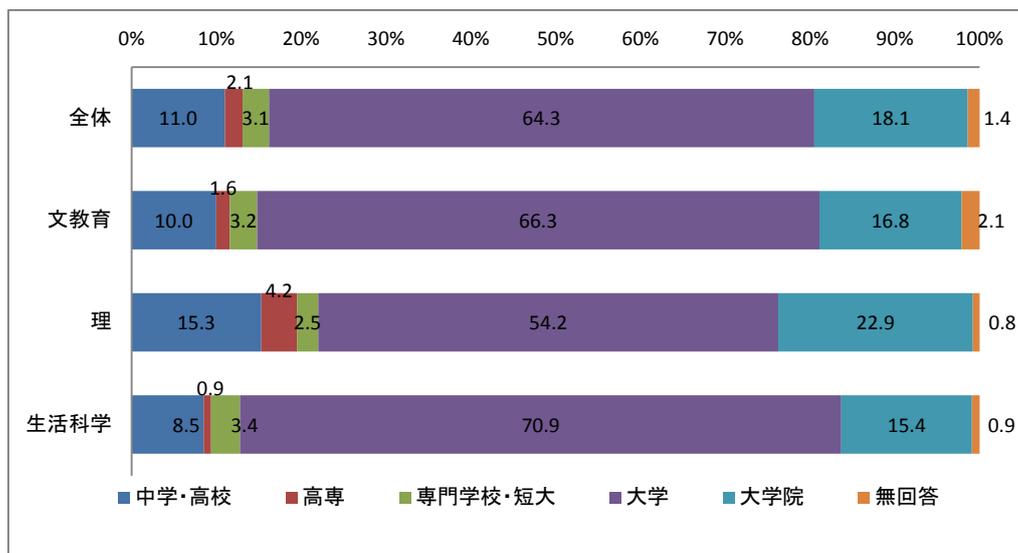
新入生の母親の職種は、全体でみると、「専門職」が 55.4% を占めており、「事務職」がそれに続いている。この傾向は平成 25 年度新入生の母親でもみられるが（お茶の水女子大学 2013, P31 参照）、今年度は「専門職」が「事務職」の倍以上となっている。

学部別にみると、理学部では「技術職」が 12.9% と他の学部より明らかに高い。その一方で「管理職」はみられず、他の学部との差異が明らかに示されている。

### ③親の学歴

図表 2-5 は、新入生の父親の最終学歴について尋ね、「大学院」「大学」「専門学校・短大」「高等専門学校」「中学・高校」別に示した結果である。

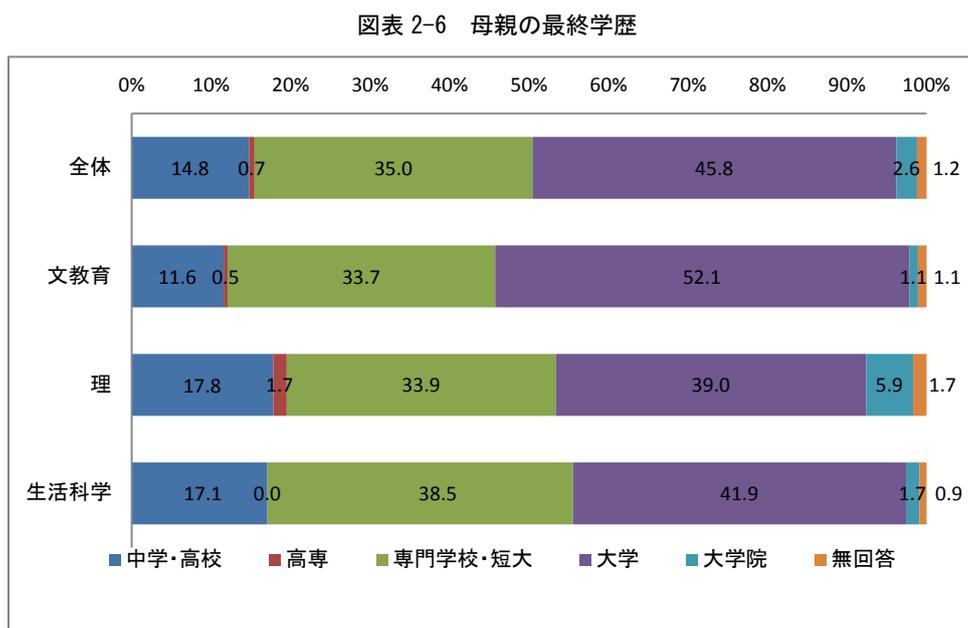
図表 2-5 父親の最終学歴



新入生の父親の最終学歴は、全体でみると、「大学」が64.3%と最も高く、それに「大学」「中学・高校」が続いている。平成25年度新入生の父親も、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学2013, P32 参照）。

学部別にみると、理学部では他の学部比べて「中学・高校」「大学院」が高く、「大学」は低い。

同様に、新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果が図表2-6である。



平成25年度の新入生の母親の最終学歴は、「大学」「専門学校・短大」がそれぞれ4割程度を占めていたが（お茶の水女子大学2013, P32 参照）、今年度は「大学」が増加し、「専門学校・短大」が減少した結果、両者には10ポイント以上もの差がみられた。

学部別にみると、文教育学部で「大学」が半数を超えており、理学部では「大学院」が5.9%みられた。

### (3) 大学入学後の経済・生活支援

本節では、新入生の大学入学後の経済・生活支援について、①奨学金・学費免除等の制度の「利用経験の有無」「認知」「利用希望」、②学生寮に関する「認知」「入寮希望」から示していく。

#### ①奨学金・学費免除等の制度の「利用経験の有無」「認知」「利用希望」

図表 3-1 は、本学に入学予定のご子女が、これまでに受けたことのある奨学金・学費免除等の制度について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 3-1 ご子女がこれまでに受けたことのある奨学金・学費免除等の制度 (%)

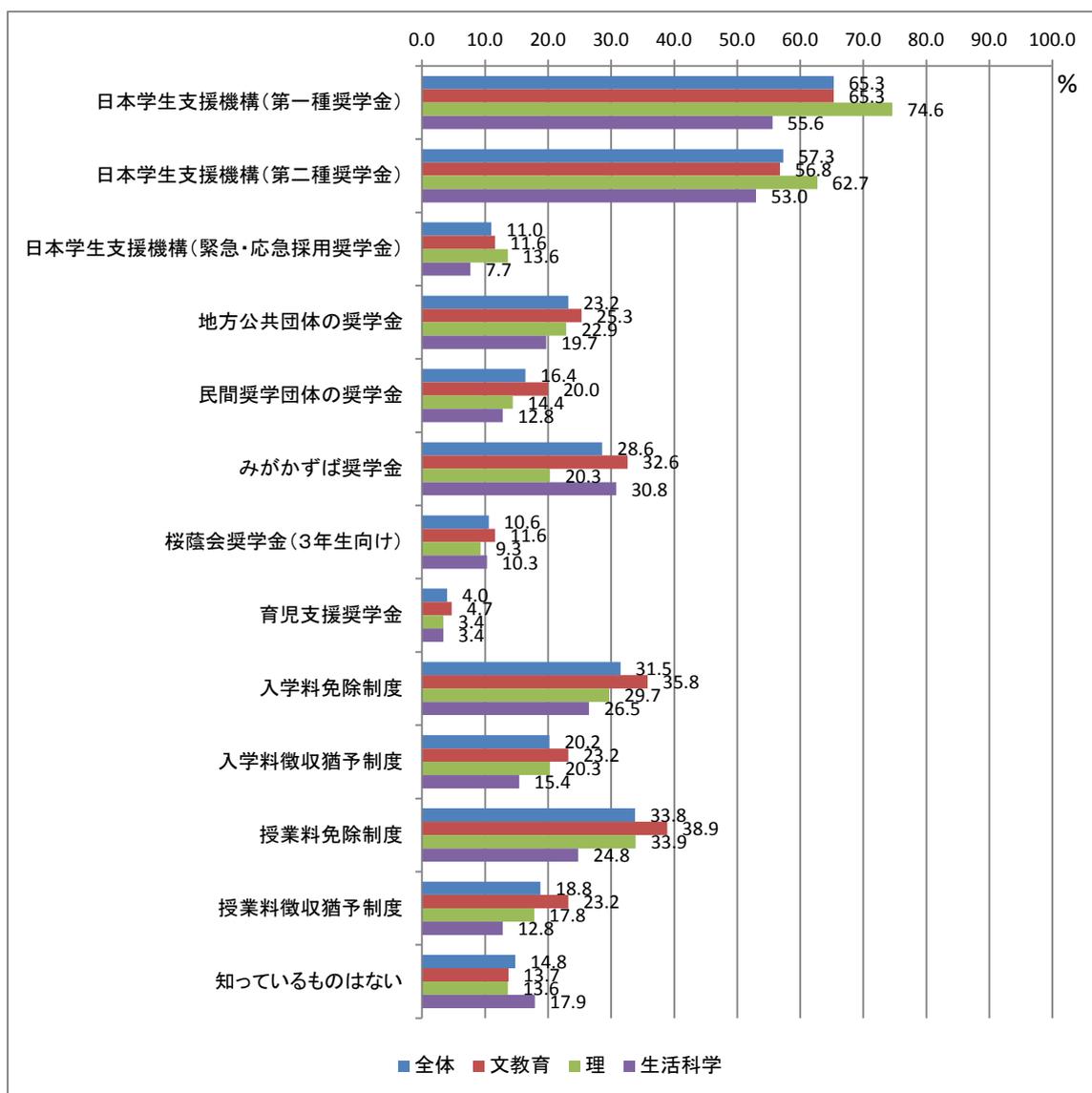
	日本学生支援 機構の奨学金	地方公共団 体の奨学金	学校独自 の奨学金	民間奨学団 体の奨学金	その他の 奨学金	学費免除	特待生
全体	0.9	1.6	1.4	1.4	0.5	1.6	4.5
文教育	1.6	2.1	0.5	2.1	0.5	2.1	4.7
理	0.0	1.7	1.7	1.7	0.0	1.7	4.2
生活科学	0.9	0.0	2.6	0.0	0.9	0.9	4.3

「特待生」は全体の 4.5%であり、学部別にみても大きな差異はみられない。

奨学金については、いずれも全体の 2%に満たない程度である。「学費免除」についても、全体の 1.6%にとどまっている。平成 25 年度新入生の保護者でも、これらと同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2013, P33 参照）。

続いて図表 3-2 は、奨学金・学費免除等の制度の認知について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 3-2 奨学金・学費免除等の制度に対する認知



「知っているものはない」は全体の14.8%であったが、生活科学部での高さがやや目立つ。

各制度の認知について、奨学金制度に関しては、日本学生支援機構による奨学金の認知率がもっとも高く、第一種については6割、第二種についても5割を超えている。いずれも理学部での認知率の高さが目立つ。本学の独自奨学金である「みがかずば奨学金」の認知率は全体の28.6%であったが、理学部での認知の低さが逆に目立っている。

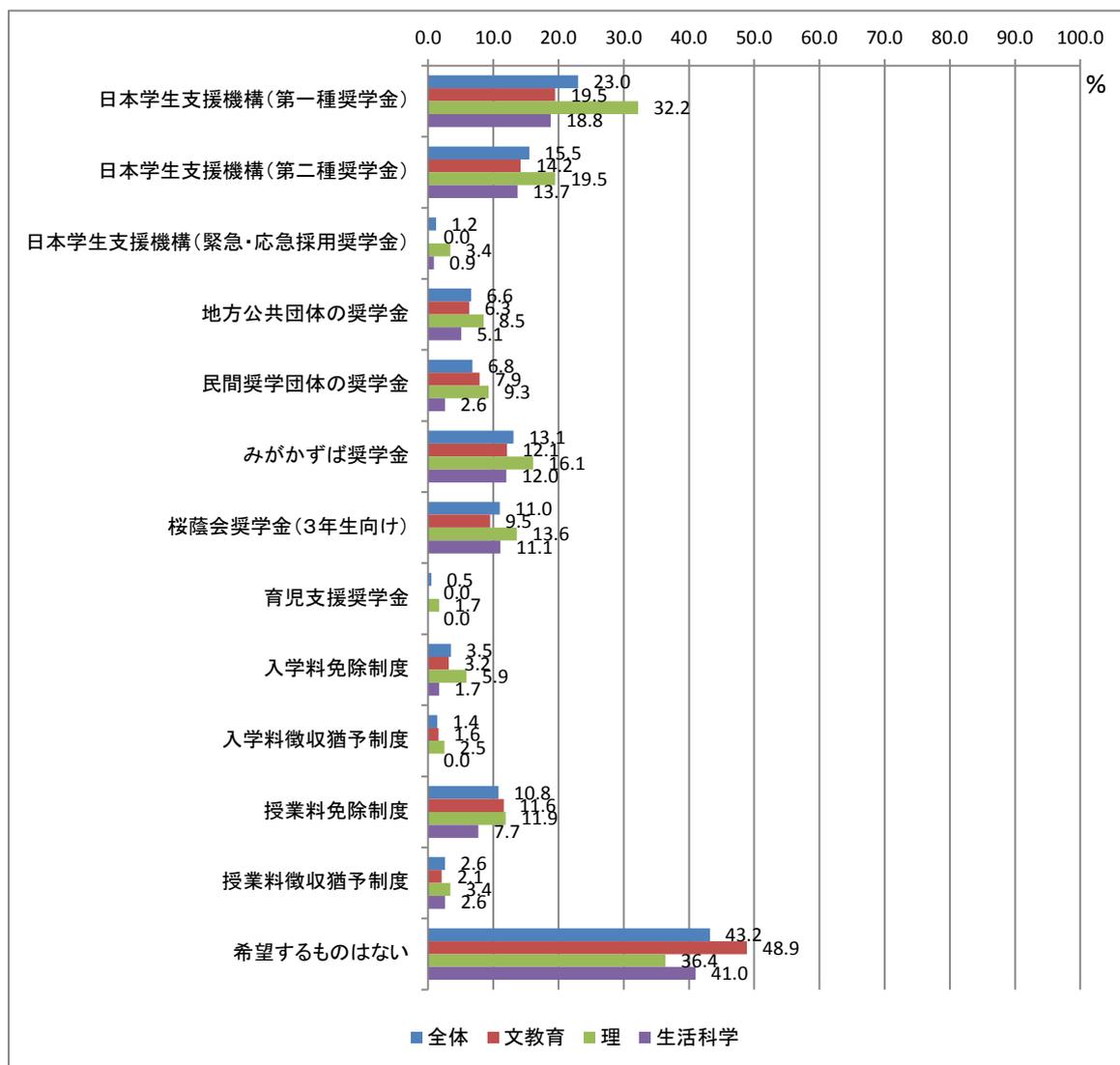
学費免除・猶予等の制度に関しては、免除制度に対する認知率が全体の3割を超えているのに対し、猶予制度に対する認知率は全体の2割程度であった。平成25年度新入生の保護者でも、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学2013, P33-34 参照）。

続いて図表 3-3 は、大学入学後の奨学金・学費免除等の制度の利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。

「希望するものはない」は全体の 43.2%であったが、文教育学部では 48.9%とおよそ半数に達している。平成 25 年度新入生の保護者の希望率は全体の 39.8%であり（お茶の水女子大学 2013, P34-35 参照）、その割合はやや増加している。

各制度の希望率について、奨学金制度に関しては、日本学生支援機構による奨学金の希望が高いが、第一種は 23.0%であるのに対し、第二種は 15.5%であり、両者に 8 ポイント程度の差が示されている。

図表 3-3 大学入学後の奨学金・学費免除等の制度の利用希望



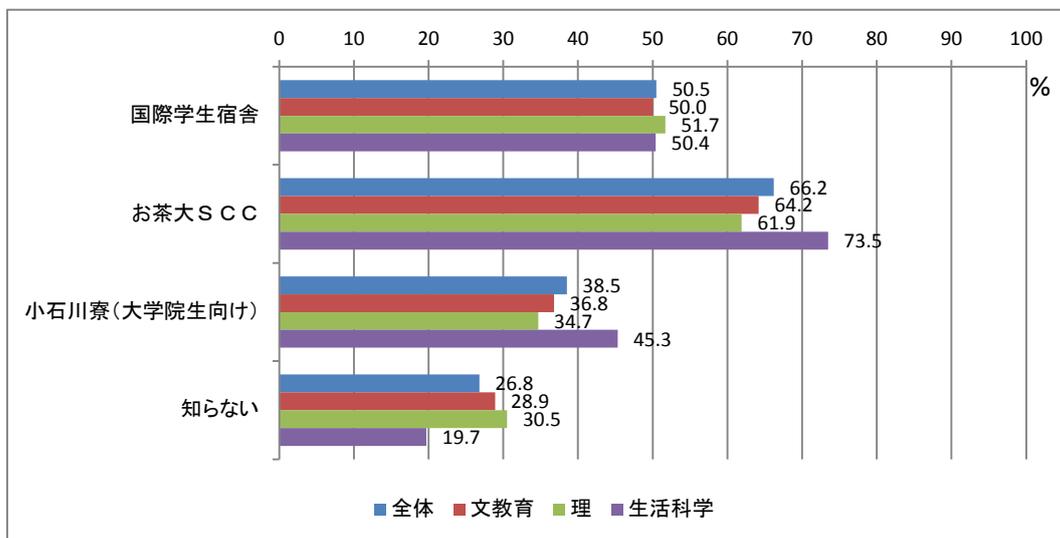
本学の独自奨学金である「みがかずば奨学金」の希望率は全体の 13.1%であり、日本学生支援機構の第二種奨学金と大差がない。いずれも理学部での高さが目立っている。

学費免除等の制度は、平成 25 年度新入生の保護者同様、「授業料免除制度」が 1 割を超えているが、他はごくわずかであり、の傾向である（お茶の水女子大学 2013, P34-35 参照）。

## ②学生寮に関する「認知」「入寮希望」

図表 3-4 は、本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 3-4 本学の学生寮に対する認知



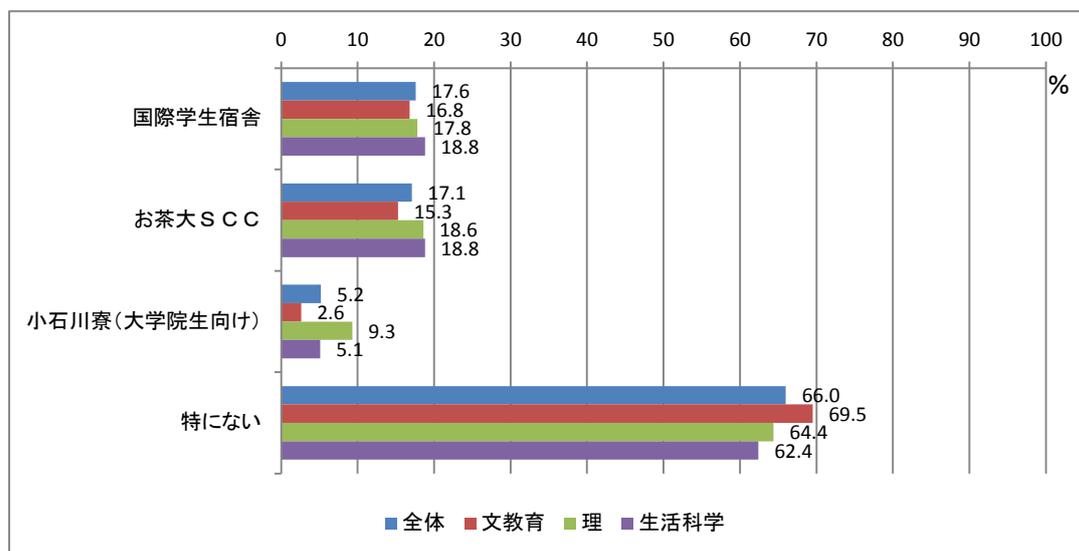
「知らない」は全体の 26.8%であり、平成 25 年度新入生の保護者より 10 ポイント程度減少している（お茶の水女子大学 2013, P35 参照）。ただし生活科学部と理学部では 10 ポイント以上の開きがみられる。

認知している学生寮については、「お茶大 SCC」が全体の 66.2%と最も高く、「国際学生宿舎」が 50.5%でそれに続いている。平成 25 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013, P35 参照）。

学部別にみると、「お茶大 SCC」はいずれの学部でも 6 割を超えているが、生活科学部では 73.5%に及んでおり、他の学部よりも明らかに高い。

続いて図表 3-5 は、本学の学生寮への入寮の希望について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 3-5 本学の学生寮への入寮希望



「特にない」は全体の 66.0%であり、平成 25 年度新入生の保護者とほぼ同様の結果である（お茶の水女子大学 2013, P35 参照）。ただし、文教育学部と生活科学部では 7 ポイント程度の開きが見られる。

また、ご子女が入学後すぐに入寮する可能性のある 2 つの寮（「国際学生宿舎」「お茶大 SCC」）の希望率は、ともに 17%程度であった。学部別にみても大きな差異はみられない。

#### (4) 大学生生活の不安・心配事

本節では、ご子女の大学生生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものから示していく。

##### ①受験から入学までに困ったこと

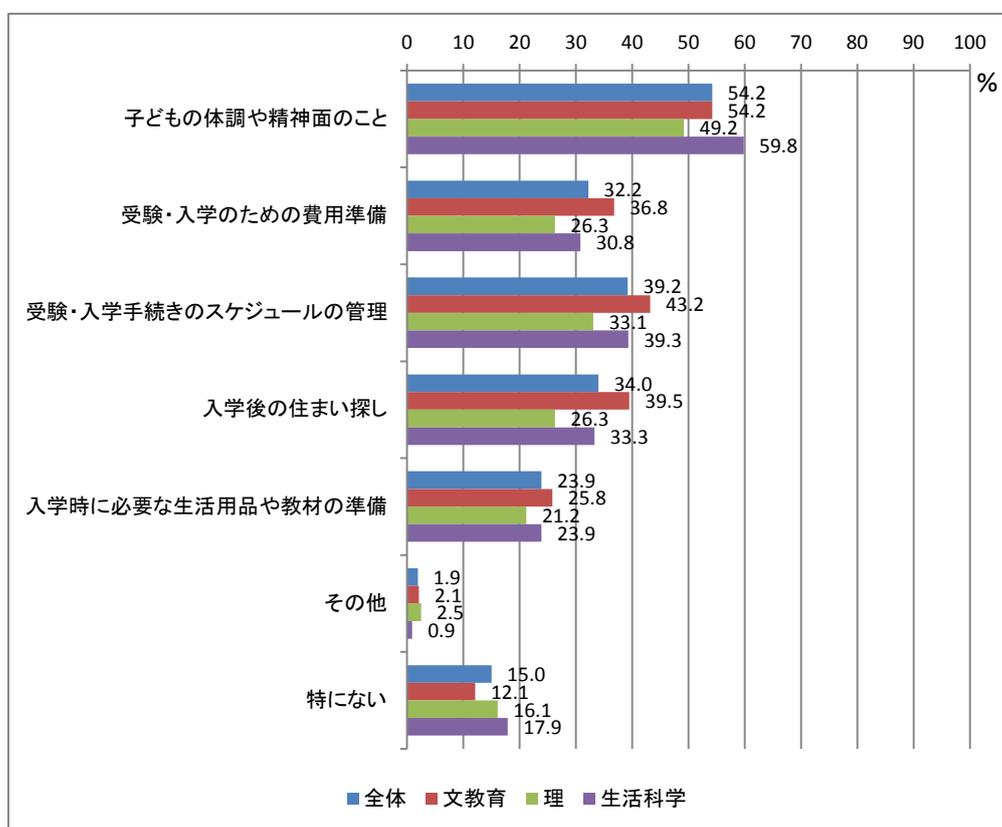
図表 4-1 は、「保護者に聞く新入生調査」を参考に、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果である。

「特にない」は全体の 15.0%であったが、文教育学部と生活科学部では 5 ポイント以上の開きが見られる。

困ったことについては、「子どもの体調や精神面のこと」が全体の 54.2%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が全体の 39.2%でそれに続いている。

これらの結果は、平成 25 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013, P36 参照）。

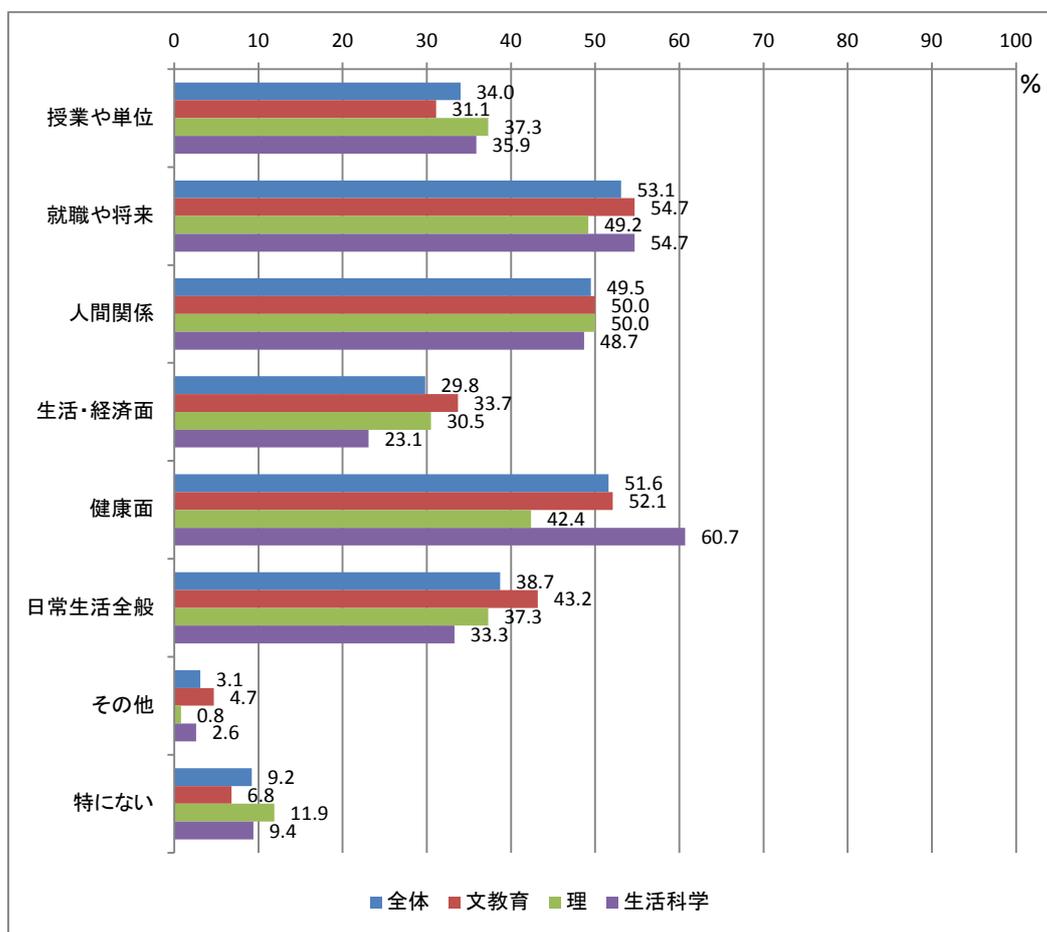
図表 4-1 受験から入学までに困ったこと



## ②大学生活が始まって心配なこと

図表 4-2 は、「保護者に聞く新入生調査」を参考に、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。

図表 4-2 大学生活が始まって心配なこと



「特にない」は全体の 9.2%であり、平成 25 年度新入生の保護者と大きな差異はみられない(お茶の水女子大学 2013, P37 参照)。ただし文教育学部と理学部では 5 ポイント程度の開きがみられる。

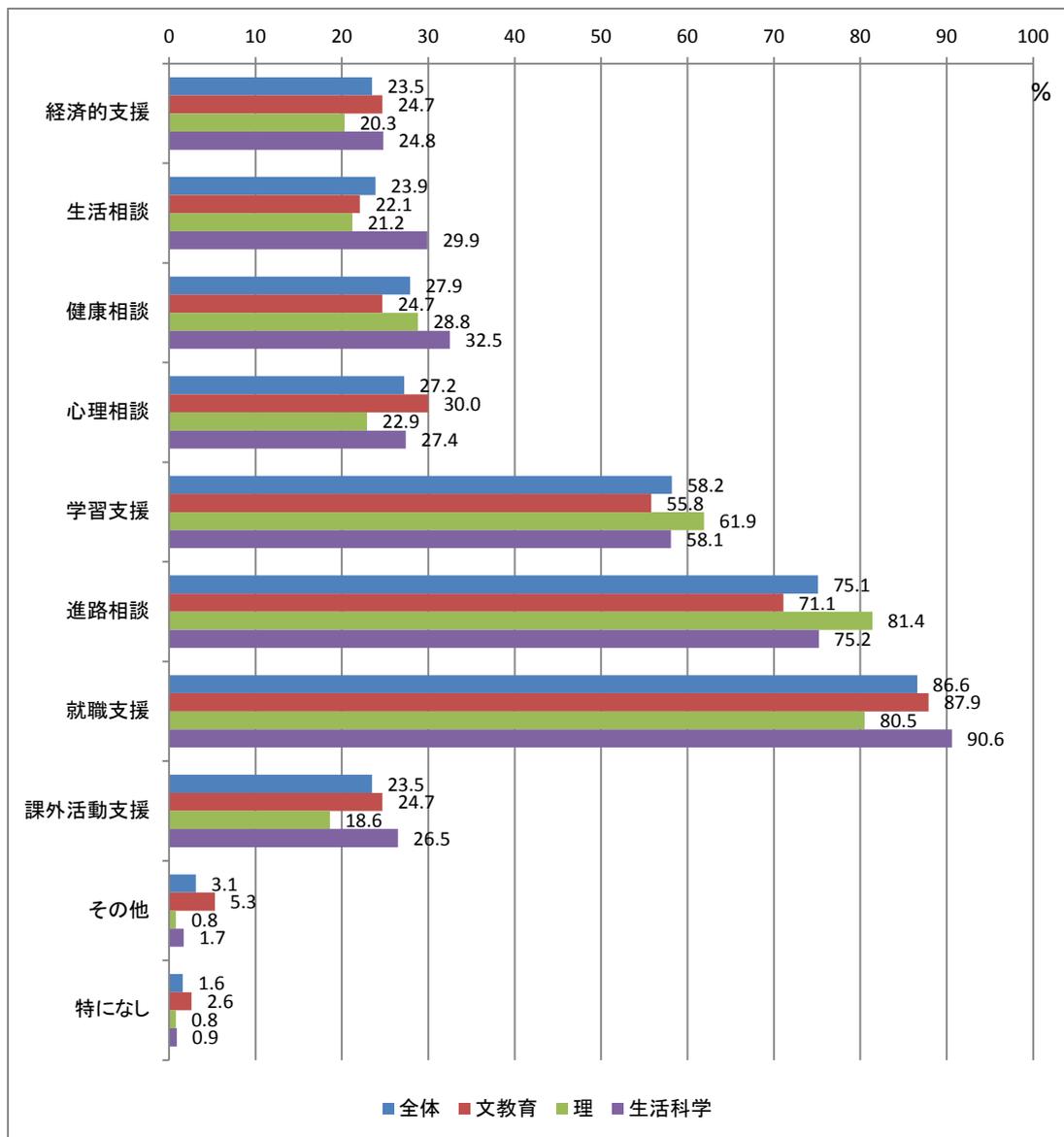
心配なことについては、「就職や将来」が全体の 53.1%と最も高く、「健康面」「人間関係」がそれに続く結果となっている。この結果は、平成 25 年度新入生の保護者でも同様に示されている(お茶の水女子大学 2013, P36-37 参照)。

学部別にみると、「就職や将来」「健康面」において理学部の低さが目立っている。

### ③本学の学生支援活動で期待するもの

図表 4-3 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねたものである。

図表 4-3 本学の学生支援活動で期待するもの



「就職支援」が全体の 86.6%で最も高く、文教育学部や生活科学部ではおよそ 9 割に達している。「進路相談」「学習支援」がそれに続くが、平成 25 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013, P37-38 参照）。

理学部では「就職支援」は 80.5%と他の学部より低いが、「進路相談」は 81.4%と他の学部より高く、「就職支援」よりもわずかではあるが高い結果となっている。